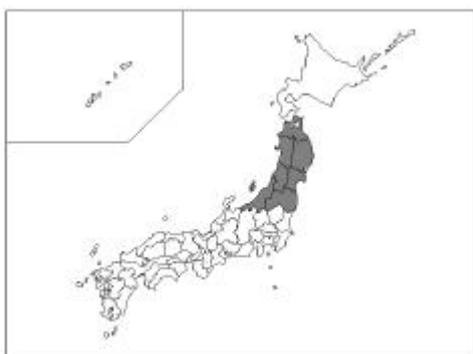


(2) 東北



東北地域では、景気はやや弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

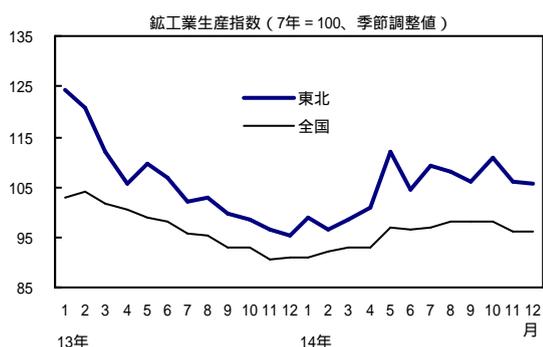
前回調査からの主要変更点

	前回（平成14年11月）	今回（平成15年2月）	
総括表現	下げ止まりつつある	やや弱含んでいる	
鉱工業生産	増加傾向にある	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

電気機械は、パーソナルコンピュータが10月の増加からその後減少に転じるなど、横ばい圏内の動きとなっている。食料品・たばこは、冷凍水産食品、冷凍調理食品を中心に一進一退で推移している。一般機械は、金型、産業用ロボットなどで一時的に増加した。繊維はニット製外衣などで減少が続いている。窯業・土石は、電子部品向けファインセラミックスを中心に弱含みながらほぼ横ばいで推移している。



(備考) 平成14年12月の東北は速報値。

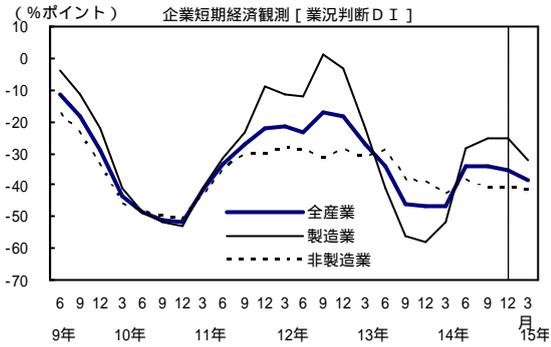
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
電気機械	34.8	2.8	1.1	0.6	9.0
食料品・たばこ	9.3	2.5	3.3	2.6	16.2
一般機械	7.5	2.8	18.1	20.7	23.6
繊維	6.7	1.8	1.1	2.8	9.2
窯業・土石	6.3	4.7	0.6	3.0	0.6
鉱工業	100.0	2.0	0.2	0.8	3.3

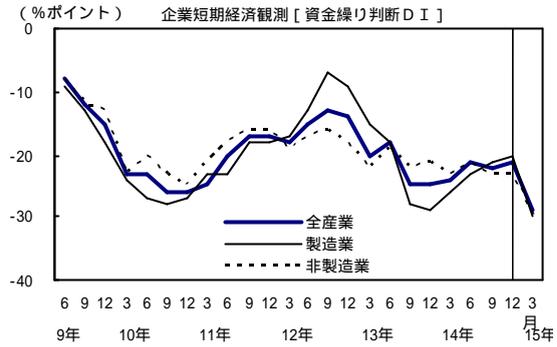
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 10~12月期は速報値。

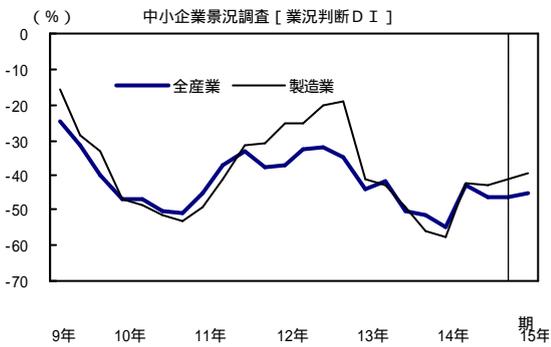
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。
 企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI] 及び中小企業景況調査 [業況判断DI]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年3月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年3月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査)[企業動向関連(現状判断)]

「得意先の設備計画が後倒しになっており、何ら変わっていない(建設業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

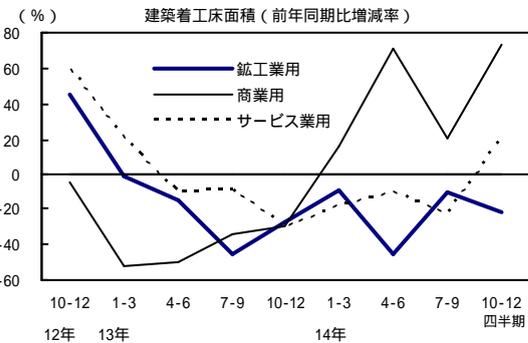
(3) 設備投資の14年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績	14年度計画
全産業	29.2	12.6 (0.4)
製造業	38.4	19.0 (0.3)
非製造業	15.0	5.3 (0.4)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



2. 需要の動向

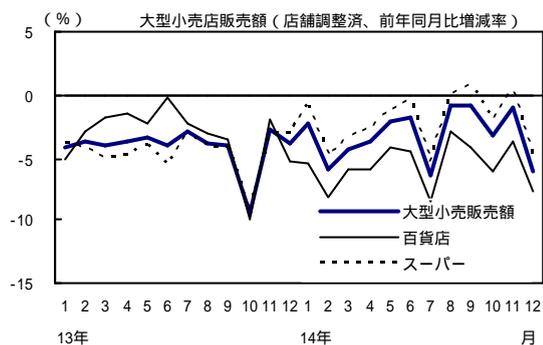
(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、秋の冷え込みが遅かった影響で秋冬物の動きが鈍く、歳末商戦も盛り上がりには欠けたことから引き続き前年を下回っている。前年比マイナスは、平成14年12月で26か月連続となっている。スーパーは、主力の飲食料品については、BSEの影響が出た昨年の反動増で牛肉が伸びたこと、歳末商戦が前倒しされたことから11月はプラスに転じたが、12月は冷凍食品や加工食品が振るわなかったことから、再び前年比マイナスとなっている。

景気ウォッチャー調査(1月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

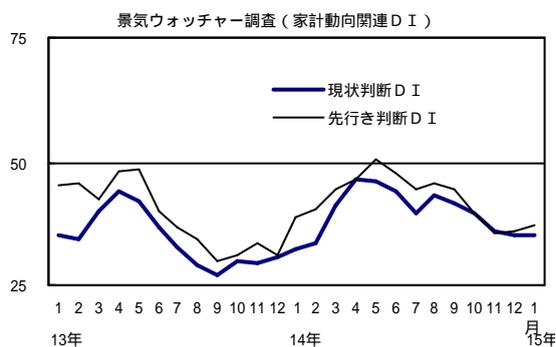
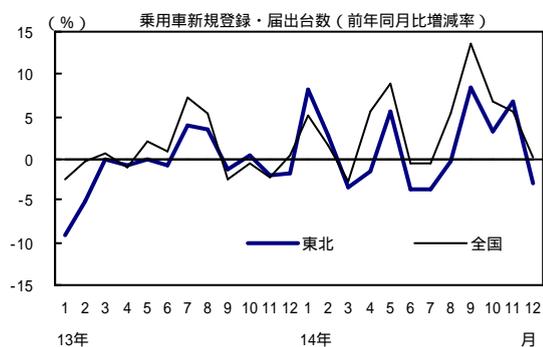
「依然としてデフレ感が強く、値段を下げれば動くが、一過性のもので終わってしまう(コンビニ)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比増減率、単位：%)

	14年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	4.0	2.5	2.8	3.6
百貨店	6.3	4.8	5.5	6.0
スーパー	2.9	1.4	1.6	2.4
乗用車	0.5	0.0	1.7	2.5
景気ウォッチャー	35.5	45.6	41.1	36.8

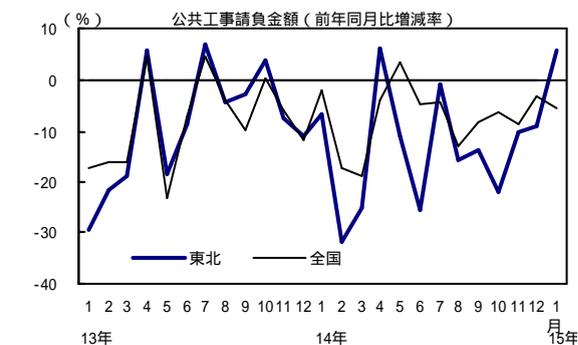
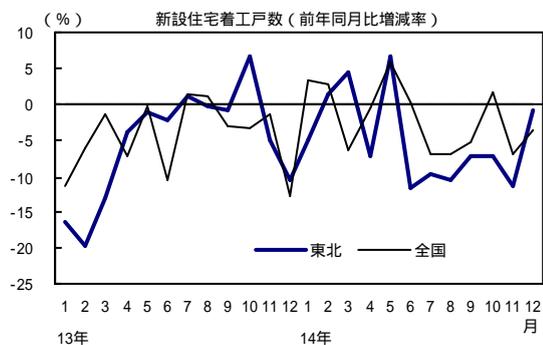
(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

分譲は増加しているものの、貸家が大きく減少しており、全体として減少している。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

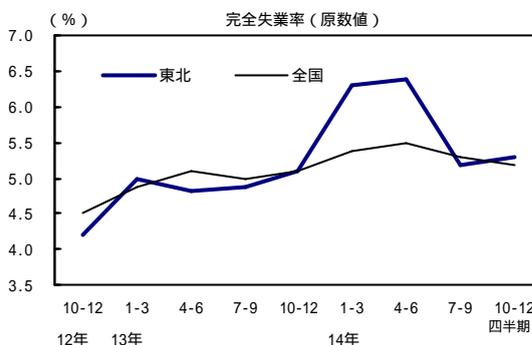
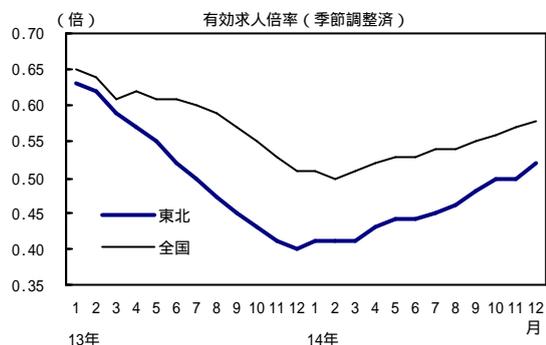


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は、上昇している。完全失業率は、前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(1月調査)[雇用関連(現状判断)]

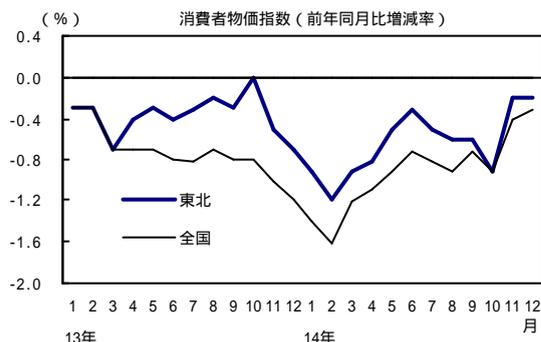
「求人は依然として増加傾向にあるが、派遣や業務請負、パート求人など、非正規雇用求人の増加が顕著である(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、倒産件数は減少しているものの、負債総額が増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	15年1月
倒産件数	402	399	366	377	101
(前年比)	3.1	1.8	2.5	2.1	12.9
負債総額	1,637	1,372	1,282	2,097	538
(前年比)	19.0	24.3	35.6	80.5	21.3



景気ウォッチャー調査(1月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

・初売りとそれに続くクリアランスセールでは記録的な売上となっているが、それらが一段落すると沈静化してしまう。景気が良くない時は、初売りやバーゲンが動くという定説があるが、全くそのとおりである(百貨店)。

<先行き>

・派遣や請負求人が増加しているが、就業場所が県外で、必ずしも地元雇用に結び付かないものや、欠員補充などが目立ち、状況に変化がみられない。(職業安定所)。

